

身近な自然資本を 持続可能な地域づくりに活かすには？

～地域全体で取り組むネイチャーポジティブ～

2025年10月24日 金 13:00 - 17:30
(受付12:30開始予定)



ローカル SDGs・脱炭素分科会 (※) 第7回イベント！

現在、気候変動や開発等の影響により、生物多様性は急速に失われてきました。世界的な「30by30 目標」の実現に向け、日本でも「自然共生サイト」などネイチャーポジティブ（自然再興）を支える制度が始動しています。しかし地域の環境保全活動の現場では、高齢化や人材不足により、制度を十分に活かしきれない団体も少なくありません。そこで鍵となるのが自治体の動きです。

本企画では、自治体が制度活用や産官学連携を通じて地域の自然資本を守り活かした実践事例や、寄付による非営利活動支援の可能性を紹介。さらに近畿で利用できるアライアンスや支援策を交え、地域ぐるみで取り組むためのヒントをお届けします。

会場

川の駅はちけんやステーション 8

(大阪市中央区北浜東 1-2 B1F) 京阪電車・OsakaMetro 谷町線「天満橋駅」17 番出口 徒歩 3 分

対象者

- ・ 地方公共団体、行政関係者
- ・ 社会課題解決に取り組む企業
NPO、大学関係者、個人

例えば...

- ・ ネイチャーポジティブや環境ボランティア活動推進の担当者になったが動き方に悩む地方公共団体、行政関係者
- ・ 事業との相乗効果を見出して、生物多様性保全や自然保護に取り組む団体をサポートしたい企業の方
- ・ 環境保全活動を実践しているがヒト・モノ・カネ・専門性などのリソース確保に課題を感じている方

お問合せ

きんき環境館

TEL 06-6940-2001

MAIL office@kankyokan.jp

定員

会場約 70 名 (申込先着順)
※当日オンライン配信あり

参加費

無料

申込方法



下記 URL または、
左の QR コード
参加申込フォームから
お申込みください。

《申込〆切：2025年10月21日（火）》
<https://forms.gle/fNrEgiUb8NRK2HHfA>

◎主催

環境省近畿地方環境事務所

◎協力

近畿経済産業局（予定）、近畿財務局（予定）、
大阪府（予定）、兵庫県、京都大学フィールド科学教育研究センター

◎協働運営

きんき環境館

■(※) 関西 SDGs プラットフォーム「ローカル SDGs・脱炭素分科会」

環境・社会・経済が統合的に向上する持続可能な地域・経済圏づくりの推進及び地域脱炭素を通じた関西の活性化を目的として、関西 SDGs プラットフォーム (SDGs の実現を目指す関西圏の約 3,300 の企業・自治体・団体等が登録しているプラットフォーム (通称：KSP)) に環境省近畿地方環境事務所が設置した分科会。ローカル SDGs・脱炭素の実践に役立つ情報発信や事例紹介のほか、事業創出に向けた出会いの場づくり、組織の壁を越えた実践者同士のネットワーク形成、地域活性化人材育成プログラムの開発・試行などに取り組めます。それにより、ローカル SDGs を実践する人たちのエコシステム (生態系) の形成と発展の仕組み化、脱炭素の要素も加えた地域の未来像の共有、実践の促進を目指します。

主な登壇者プロフィール



中江 譲二 氏（佐賀県唐津市 市民環境部環境課 カーボンニュートラル推進係 係長）

大学卒業後、民間就職を経て市役所へUターン。
農政課で担い手育成協議会の設立。その後、買い物弱者支援の地域おこし協力隊を県内初導入。
コロナ緊急事態時には広報課で公式YouTubeを開設し、動画を配信。
現在、環境課でCNとNPの両立を目指し環境課 × 水産課、林務課など連携した取組みを実践中。



前田 雅寛 氏（大阪府阪南市 未来創生部副理事（兼）まちの活力創造課 課長）

理学療法士として20年勤務後、阪南市役所へ。土木管理、保険年金、秘書広報を経て現職。
SDGs 未来都市として「お茶とアマモから始まるカーボンニュートラル」や海洋教育、アマモ場再生を軸にブルーカーボンの取組を展開。伊丹市・飯南町との連携による地域循環共生圏の構築などを通じて脱炭素まちづくりを推進。子どもたちや市民、企業・団体との協働、多様なステークホルダーとつながり合い、ともに歩んでいる。



渡邊 文隆 氏（Ph. D. in Management Science）

京都大学 成長戦略本部 特定准教授。Beyond 2050 社会的共通資本研究部門に所属。
京都大学総合人間学部在籍中に2度休学し、ブラジルやウガンダでのNGO活動に参加。
環境ビジネス企業のアマタに勤務した後、2013年からiPS細胞の研究・実用化のための寄付募集に従事。
2023年に博士号（経営科学）取得。iPS財団 特命専門業務職員を兼務。



小田切 裕倫 氏（東北大学 ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点 運営統括、ビジョナライザー）

地域を舞台に「環境・暮らし・ビジネス」をつなぐ場と物語をデザインし、グリーンビジネスや地域活性、コスメなど多分野のプロジェクトを展開。
2025年7月より、東北大学ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点（NP拠点）に参画。
地域のリアルと未来像のあいだを行き来しながら、ネイチャーポジティブな社会に向けた、人と自然と科学の新たな関係性を編み出している。ビールと音楽とサッカーが好き。佐賀県、東京、仙台の3拠点生活。

プログラム（予定） ※講師、プログラムは変更になる場合がございます。

- 13:00 開会挨拶・趣旨説明、取組紹介
- 13:05 第一部 講師講演
 1. ありたい未来の自然像は地域で作る～唐津市ネイチャーポジティブ宣言～
中江 譲二 氏（佐賀県唐津市 市民環境部環境課 カーボンニュートラル推進係 係長）
 2. 学びから広がる海の未来～子どもたちと育む阪南市の里海づくり～
前田 雅寛 氏（大阪府阪南市 未来創生部副理事（兼）まちの活力創造課 課長）
 3. 自然資本などの社会的共通資本を支える「寄付」の可能性
渡邊 文隆 氏（Ph. D. in Management Science）
 4. ネイチャーポジティブは「地方」とはじめる～産官学民全体で共鳴して取り組むには～
小田切 裕倫 氏
（東北大学 ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点 運営統括、ビジョナライザー）
- 14:55 第二部 トークセッション
- 15:35 第三部 関連情報の提供
 - ・大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA） 大阪府
 - ・ひょうご豊かな海づくり県民会議 兵庫県
 - ・里海・河川の生物多様性評価に向けた環境DNA技術の活用
八柳 哲 氏（京都大学フィールド科学教育研究センター・舞鶴水産実験所 特任助教）
 - ・自然共生サイトに関する各種支援の紹介 近畿地方環境事務所
 - ・地域の協働を促進する役割としてのきんき環境館 きんき環境館
- 16:35 第四部 登壇団体との対話、ネットワーキング
 - ・各テーマに分かれ、登壇者・参加者を交えたグループディスカッションを行い、自由に情報・意見交換・ネットワーキングを行います

第四部は、オンラインの配信はございません。
ご参加希望の方はぜひ対面でご参加ください。